

# 奥尻島地域再生プロジェクト

## 昨年採択、その具体的な概要は……

北海道で進めています「地域再生チャレンジ交付金」で、奥尻町の「奥尻島観光客倍增プロジェクト～人・自然・食がもてなす奥尻観光～」が昨年採択されたことについて、広報「おくしり」1月号（新年特集号・No.478）でご紹介しましたが、今月号ではその具体的な事業の概要についてご紹介します。

## 奥尻島地域再生プロジェクトの概要

### ○ 地域再生プロジェクトの目標は

#### 【現状・課題】

奥尻町は平成5年の北海道南西沖地震から平成10年に『完全復興宣言』しました。しかし離島である為にその後町の財政的な負担も大きく、また、基幹産業の水産業も低迷、就業者の減少、高齢化、地域経済は厳しい状況で、これにより雇用の場が少なく若年層流出などにより人口も減少しています。

町では行財政の向上を図る為に、「基幹産業」（水産業や地場企業）に「観光」が加わることで、より大きな経済波及効果をもたらすことから、「奥尻島の観光産業」を積極的に進めることとしています。

#### 【プロジェクトの必要性】

奥尻町は震災後に観光振興に力を注ぎ、平成15年度には観光入込客数は57000人まで回復しました。しかし、この間のまちづくりの重点は復興対策であったことから、現在は道内観光先進地と比較すると観光総合力は遅れた状況となっています。特に、地域資源活用や人材育成・体験・滞在型観光など観光ニーズへの対応は十分ではなく、観光と第一次産業など、産業間連携、業界関係者の協力・連携体制が確立されていないなどから平成15年度以降は観光入込客数が減少傾向にあります。

このピンチを乗り切るため本プロジェクトを町民皆様に理解しあい、もっともっと人・食・観光資源開発・体験型観光を生かし、町や関係団体、住民等の連携強化、人材育成、情報発信、観光資源等の「島チカラ」を積極的に展開していくこととします。

#### 【プロジェクトの目標】

- ①プロジェクト期間最終年度（H23年度）に観光客入込数を75,000人
- ②10年後平成29年度には現在の2倍の100,000人を目指します。

### ○ 住民・民間団体等はどうなふうにかかわっていくのでしょうか？

#### 【いろいろな角度で多くの島民が関わっていく。これが奥尻島の目指す観光スタイルです】

人口減少や少子・高齢化の進行、基幹産業の低迷、離島条件や制約など、奥尻町は住民生活や地域産業、町財政の面で大変厳しい状況にあります。

奥尻島が抱える課題をマンパワー、つまり「島チカラ」で克服できることは沢山あります。

離島観光のモデルとなるように一丸となって取り組ましましょう。

町～行政として全般的な観光施策を進めるとともに、プロジェクト構成事業実施の総合調整や、民間等が行う事業の効率的・効果的な執行に資する指導・助言を行う。

民間～人材育成や情報発信、体験型観光の推進、食の掘起し・提供など、民間が主体的に担うべき分野の事業を実施する。

住民～観光スポットのゴミ拾いや沿道の植栽などコミュニティ単位の美化運動や、観光客との交流など住民レベルで取り組みを進める。

### ○ 奥尻島の6つの「島チカラ」のおもてなしがキーワード

- ①自然力……日本海や離島での北限のブナ林を活かした海と山の自然が調和する島づくり
- ②人材力……島民全体が観光ホスピタリティ意識を持つとともに、奥尻島の歴史・文化、伝統的な技術の伝承など、高齢者等の人材活用、観光客との交流によるふれ合いをつうじて、島民一人ひとりが心豊かな島づくり
- ③健康力……島民全体が観光ホスピタリティ意識を持ち、島全体が観光地として活性化することにより、島民一人ひとりが笑顔で心豊かな健康的となる島づくり
- ④食材力……地元産業と連携した水産物や農産物、山菜、奥尻和牛などの新しい食材や三平汁等の郷土食の提供、アワビやウニ採り体験など奥尻の食の総合的な活用と地元食材をつうじた食の安心・安全を学ぶ島づくり
- ⑤防災力……震災・津波を体験した島として防災学習の発信拠点となる島づくり
- ⑥連携力……北海道本土の檜山南部・渡島西部の8町と連携したシーニックバイウェイルートの形成による広域観光の島づくり

■奥尻町の交通事故死ゼロの日は1月26日現在で2,400日に達しています。この町から交通事故死をなくしましょう



▲奥尻島は新鮮な海産物が豊富です



▲奥尻島は夕日や奇岩など自然美が最高です



▲奥尻島は観光客の倍増を目指します

## ○島チカラをどうやって活用していくのか

奥尻の魅力を語ると「アワビやウニなどの新鮮な海産物」「日本海の夕日、奇岩などの自然景観」「新鮮な空気、ゆったりと流れる島時間」など、離島ならではの沢山の素材があります。また、平成5年の北海道南西沖地震復興記録など、他の離島には見られない教訓を生かした学習資源のほか、縄文遺跡やオホーツク文化との交流の痕跡など、多様な歴史資源を有しています。

そして近年は、奥尻和牛やミネラルウォーターの生産、ワイン製造に向けた取組みなど、地元企業によるブランド化が進み新しい特産物も生まれつつあります。

こうした多種の地域資源は、食、体験型観光、健康や癒しといったニーズに十分応える潜在力を持っていますので活用していく必要があります。

- ①アワビやウニはもとより、カレイ、ホッケ、タラや山ではキトビロ（ギョウジャニンニク）、フキ、コゴミなどの山菜や奥尻和牛など、まだ知られていない地元の新鮮な料理・健康食のメニュー化
- ②アワビやウニ採り、スキューバダイビングなどの体験観光
- ③フットパスなど自然や文化とのふれ合いによる癒しや歴史資源といった地域資源を最大限に活用
- ④奥尻町の魅力を積極的に情報発信した観光客の誘致
- ⑤特産物の販路拡大や市場の開拓

このような取り組みを具体的に関係機関が実施することで、地域経済や地域産業の振興を図られていきます。

## ○地域再生プロジェクトの展開について

事業の実施主体は町と民間の協働を基本にしており、プロジェクト推進に係る管理・フォローアップは本協議会が行います。後にご紹介いたします個別事業については、町が担うべき役割、民間が担うべき役割を明確にしてプロジェクトを展開していきます。

特に観光振興の主体的役割を担う観光協会については、NPO法人化も視野に入れ体制の強化を図り、自主事業の展開など、観光協会主導の観光振興を進めていくこととします。

また、企業と民間団体のタイアップ、企業の事業参加を促すなど、民間活力を活用していく取り組みが観光活力の今後に大きなキーワードとなっていきます。

財源の考え方はどのように

町 ……………プロジェクトの推進に真に必要な事業の事業費負担、民間・団体が実施する事業への財政支援を行う。町の財政負担については、毎年度事業評価を行い、効率的・効果的な執行に努め、事業の継続を図ります。

観光協会……会員の負担金や事業協賛金、観光メニューの多様化で収入の拡大を図り（体験観光参加費、イベント収入、観光ガイド等）、自立的に事業展開を目指し奥尻島観光に深く関わる地元企業に事業参加を促すなど、企業の資金力や資本を活用していきます。

町 民……観光ボランティア活動を根付かせる為にマンパワーを活用して経費の支出を可能な限り抑え、地元企業の事業参加を促し、企業の資金力を活用していきます。

本特集は概要版とさせていただきます。奥尻町が提案した「地域再生プロジェクト計画書」は奥尻町HPアドレス <http://www.town.okushiri.lg.jp/> に掲載しておりますのでご覧ください。

## ○「地域再生プロジェクト」に関する詳しいお問い合わせ先

奥尻町役場 総務課 政策推進係

T E L 01397-2-3403（直通）

または 01397-2-3111（内115）

F A X 01397-2-3445

■今月の自動車運転免許更新時講習は、2月13日(水)海洋研修センターで行われますので、対象者は忘れずに受講を